

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:)	
)	
Masanaga TOKUYO, et al.)	
)	Group Art Unit: Unassigned
Serial No.: To be assigned)	
)	Examiner: Unassigned
Filed: February 20, 2001)	
)	
For: IP ROUTER DEVICE HAVING)	
A TCP TERMINATION)	
FUNCTION AND A MEDIUM)	
THEREOF)	



**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN
APPLICATION IN ACCORDANCE
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. §1.55**

*Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231*

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. §1.55, the applicant submits herewith a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No. 2000-051334
Filed: February 28, 2000.

It is respectfully requested that the applicant be given the benefit of the foreign filing date as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements of 35 U.S.C. §119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY LLP

Date: February 20, 2001

By: _____

James D. Halsey, Jr.
Registration No. 22,729

700 Eleventh Street, N.W.
Suite 500
Washington, D.C. 20001
(202) 434-1500



PATANT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

This is to certify that the annexed is a true copy of the
following application as filed with this Office.

Date of Application: February 28, 2000

Application Number: Patent Application
No. 2000-051334

Applicant(s): FUJITSU LIMITED
NTT DoCoMo, Inc.

January 19, 2001

Commissioner,
Patent Office Kozo OIKAWA

Certificate No. 2000-3113678

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

JC929 U.S. PTO
09/788390
02/21/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 2月28日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-051334

出 願 人

Applicant(s):

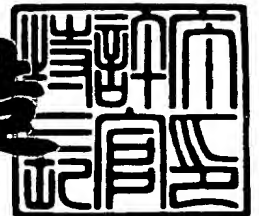
富士通株式会社

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ

2001年 1月19日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3113678

【書類名】 特許願

【整理番号】 9952076

【提出日】 平成12年 2月28日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G06F 13/00

【発明の名称】 T C P 終端機能付き I P ルータ装置および媒体

【請求項の数】 6

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

 【氏名】 徳世 雅永

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

 【氏名】 中川 格

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

 【氏名】 竹間 智

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

 【氏名】 藤野 信次

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門二丁目10番1号 エヌ・ティ・ティ 移動通信網株式会社内

 【氏名】 谷口 徹哉

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門二丁目10番1号 エヌ・ティ・ティ

移動通信網株式会社内

【氏名】 久永 隆則

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門二丁目 1 0 番 1 号 エヌ・ティ・ティ
移動通信網株式会社内

【氏名】 近田 倫康

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門二丁目 1 0 番 1 号 エヌ・ティ・ティ
移動通信網株式会社内

【氏名】 桑田 大介

【特許出願人】

【識別番号】 000005223

【氏名又は名称】 富士通株式会社

【特許出願人】

【識別番号】 392026693

【氏名又は名称】 エヌ・ティ・ティ移動通信網株式会社

【代理人】

【識別番号】 100100930

【弁理士】

【氏名又は名称】 長澤 俊一郎

【電話番号】 03-3822-9271

【選任した代理人】

【識別番号】 100080894

【弁理士】

【氏名又は名称】 京谷 四郎

【電話番号】 03-3823-7935

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 024143

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9704945

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 TCP 終端機能付き IP ルータ装置および媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 TCP コネクションを終端させる機能を備えた複数の異なる IP ネットワークを接続するルータ装置であって、

上記ルータ装置は、中継しようとする TCP コネクションを形成する複数の IP パケットが前記ルータ装置を通過しようとする際に、パケット内の IP アドレス情報およびポート番号情報の一部を所定の規則に従い書き換える第 1 の変換手段と、

前記 TCP コネクションの本来の接続先を示す情報を抽出し、前記ルータからその接続先へ TCP コネクションを生成し、前記 2 つの TCP コネクションをストリームで連結する手段と、

上記本来の接続先への TCP コネクションについて、それを形成する複数の IP パケット内の IP アドレス情報およびポート番号情報の一部を所定の規則に従い書き換える第 2 の変換手段とを備え、

上記第 1、第 2 の変換手段は、上記 2 つの TCP コネクションを 1 組として取り扱い、上記 1 組の TCP コネクションに対して一意の識別番号を付与してデータベースに格納し、該データベースに格納された一意の識別番号により、2 つの TCP コネクションを管理することを特徴とする IP ルータ装置。

【請求項 2】 上記第 1、第 2 の変換手段は、TCP スタックからの TCP コネクションの終了の通知を受けて、上記データベースに格納している識別番号の情報を作成、消去もしくは、更新することを特徴とする請求項 1 の IP ルータ装置。

【請求項 3】 上記第 1、第 2 の変換手段は、TCP 以外の IP パケットについては、IP パケット内の情報の書き換えを行わず、所定のネットワークにルーティングすることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 のルータ装置。

【請求項 4】 上記第 1、第 2 の変換手段は、

所定のコネクション数を超えた新たなTCPコネクションのIPパケットについて、IPパケット内の情報の書き換えを行わず、所定のネットワークにルーティングする

ことを特徴とする請求項1，2または請求項3のIPルータ装置。

【請求項5】 上記第1，第2の変換手段は、

所定の型をパケット内のヘッダ情報として持つICMPパケットについて、そのIPアドレス情報およびポート番号情報、および、パケットデータ内に含まれるTCP/IPのヘッダ情報の一部を書き換える

ことを特徴とする請求項1，2，3または請求項4のルータ装置。

【請求項6】 TCPコネクションを終端させる機能を備えた複数の異なるIPネットワークを接続するプログラムを記録した記録媒体であって、

上記プログラムは、中継しようとするTCPコネクションを形成する複数のIPパケットが前記ルータ装置を通過しようとする際に、パケット内のIPアドレス情報およびポート番号情報の一部を所定の規則に従い書き換え、

前記TCPコネクションの本来の接続先を示す情報を抽出し、前記ルータからその接続先へTCPコネクションを生成し、前記2つのTCPコネクションをストリームで連結し、

上記本来の接続先へのTCPコネクションについて、それを形成する複数のIPパケット内のIPアドレス情報およびポート番号情報の一部を所定の規則に従い書き換え、

上記2つのTCPコネクションを形成する複数のIPパケット内のIPアドレス情報およびポート番号情報の一部を書き換えるに際し、上記2つのTCPコネクションを1組として取り扱い、上記1組のTCPコネクションに対して一意の識別番号を付与してデータベースに格納し、該データベースの格納された一意の識別番号により、2つのTCPコネクションを管理する

ことを特徴とする複数の異なるIPネットワークを接続するプログラムを記録した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

従来、インターネットはイーサネットを中心とした有線で構成されていたが、近年、インターネットを構成するネットワークが多様化し、携帯電話、PHS、さらには無線パケット装置などを利用したIPネットワークが広く使われるようになってきている。無線ネットワークを含むインターネットにおいて、与えられた帯域を有効に利用するためには、有線と無線のように異なる性質を持つネットワークを結合しても、それらを跨るホスト間のコネクションにおいて効率的な伝送レートが得られるIPルータが必要とされている。

本発明は、上記インターネットプロトコル(IP)を基盤としたコンピュータネットワークにおいて、異なるネットワークを結合しIPパケットをネットワーク間で橋渡しするTCPコネクションを終端させる機能を備えたIPルータ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

有線のネットワークでは、IPパケットの紛失や遅延はネットワークを結ぶIPルータ内での輻輳によるものがほとんどであった。一方、無線のネットワークでは、物理層すなわち電波として変調されたデータが、電波の減衰、干渉や物体による遮蔽などによる状況変化の影響を受けてデータが正しく伝送されないことによって、IPパケットの損失や遅延が発生する。

現在インターネットでは、信頼性のあるデータ伝送を行なうために、TCP (Transmission Control Protocol) というプロトコルが標準として使われている。

【0003】

しかしながら、TCPは有線のネットワークで起こる輻輳を主たるパケット損失／遅延の原因としており、無線ネットワークではTCPを制御するパラメータおよびアルゴリズムを無線用に最適化しないと、効率的な伝送レートが得られないことが知られている。

これに対して、TCP層でTCPコネクションを一度終端し、性質の異なるネットワークに対して別々のTCPコネクションを持つことによって、それぞれに

適した制御パラメータやアルゴリズムを使用し、効率的な伝送レートを得るアプリケーションゲートウェイが提案されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

従来型IPルータ装置の構成を図16に、また従来型TCP終端装置の構成を図17に示す。IPルータ装置は、図16に示すようにネットワークドライバ11a、11b、IPスタック12a、12b、IPフォワーディング16から構成され、図16に示すようにIPパケットをネットワーク間で受け渡す。図18にIPパケットのヘッダ構成を、図19にTCPパケットのヘッダ構成を、図20にICMPパケットのヘッダ構成を示す。

IPパケットのヘッダ部には図18に示すように送信元のIPアドレスを示すsrc-IP (SOURCE IP ADDRESS)、接続先のアドレスを示すdst-IPアドレス (DESTINATION IP ADDRESS) が記述され、TCPパケットのヘッダ部には図19に示すように送信元のポート番号であるsrc-ポート番号 (SOURCE PORT)、接続先のポート番号であるdst-ポート番号 (DESTINATION PORT) が記述される。また、ICMPパケットのヘッダ部にはTYPE (型) と、IPヘッダと最初の64ビットのデータグラムが記述される。

【0005】

図21に上記従来型のIPルータ装置のIPスタック12a、12bにおけるIPパケットの入力処理のフローを示し、図22にIPルータ装置のIPスタック12a、12bにおけるIPパケットの出力処理のフローを示す。入力処理において、IPスタックは図21に示すようにIPパケットのdst-IPアドレスが自ホスト宛か判断し、自ホスト宛の場合には自ホストのTCP/UDPスタックにパケットを引き渡す。また、自ホスト宛でない場合には、IPフォワーディング経由でIPパケットを出力処理に引き渡す。

また、出力処理において図22に示すようにdst-IPアドレスもしくはそのサブネットワークでルーティングテーブルを検索し、該ルーティングテーブルに従い、ネットワークドライバにIPパケットを引き渡す。

【0006】

IPルータ装置は、上記のようにIPパケットをネットワーク間で受け渡しているだけなので、エンドホストでは基本的にルータの存在を関知しない。このルータ装置を介した任意のホスト間においては、一意にIPパケットを到達させることが可能であり、IPパケットヘッダ内のsrc-IPアドレスおよびdst-IPアドレスの情報はなんら変化しない。また、エンドーエンドの経路上に位置するルータの構成や数に変化しても、影響を受けない。

すなわち、インターネットは、その性質の一つとして、各ホストがグローバルに一意なIPアドレスを持ち、そのホストから任意のホストへ通信ができ、かつ、任意のホストからそのホストへ通信ができる。これを「エンドーエンドのグローバルコネクティビティの保証」という。

【0007】

一方、従来型TCP終端装置（アプリケーションゲートウェイ）は、図17に示すように、ネットワークドライバ11a, 11bと、IPスタック12a, 12bとTCPスタック13a, 13bとストリーム転送手段14、および接続情報を保持するデータベース20から構成される。

図23に従来型のTCP終端装置（アプリケーションゲートウェイ）におけるストリーム転送機能のフローチャートを示す。同図に示すようにストリーム転送機能は、サーバソケットとしてTCPコネクションの接続を待ち（ステップS1）、クライアントとTCPコネクションを確立する（ステップS2）。ついで、ストリーム内のデータから接続先のIPアドレスとポート番号を取得し（ステップS3）、クライアントソケットとして、上記接続先にTCPコネクションを確立する（ステップS4）。

そして、ストリームが継続しているかを判断し（ステップS5）、継続していない場合には処理を終了する。処理が継続している場合には、クライアントとのストリームから一定量以下のデータを読み出し（ステップS6）、サーバとのストリームへ前記データを書き出す（ステップS7）。

【0008】

上記したTCP終端装置（アプリケーションゲートウェイ）においては、以下に示す理由から前記した「グローバルコネクティビティの保証」ができないとい

う問題点を持つ。

(a) プロトコル依存アプリケーションゲートウェイの多くは、特定のプロトコルのみに対してTCP終端を行なう。

そのためサポート外のアプリケーションはIPパケットもしくはTCPストリームが流れない。

(b) エンドーエンド情報の非保存ゲートウェイ自身がTCPを終端するために、ゲートウェイのホストが、それぞれのエンドホストに対して対向しているエンドホストとして見える。つまり、本来のエンドホスト同士がお互いを自分のエンドホストとして認識できなくなる。

【0009】

TCP終端装置（アプリケーションゲートウェイ）を実現する上で重要なことの一つに接続先の情報をクライアントホストから「何らかの手段」で通知してもらう必要がある。

具体的な例として、ウェブのデータを扱うhttpは、プロキシというアプリケーションゲートウェイを介した通信をサポートしている。ここでは接続先のIPアドレスやポート番号の情報を記述することができる。

しかし、このような方式はすべてのアプリケーションプロトコルが対応しているわけではないので、サービスのスケーラビリティが著しく低いといえる。

【0010】

これに対して、アプリケーションゲートウェイと連携するクライアントホスト用ソフトウェア（ミドルウェア）を用いる方式がある。

これは、すべてのTCPコネクションを一律アプリケーションゲートウェイに向けるもので、一般的なプロキシに比べるとサービスのスケーラビリティが格段に向上している。

しかし、以下に示すような、コネクションの確立過程が2段階構成で2回目のコネクションが1回目の逆向きに確立するプロトコルには対応できない。

具体的な例として、アプリケーションゲートウェイでデータ転送アプリケーションftpを使うことを考える。

まずクライアントからサーバに対しての「コントロールセッション」を確立す

ることは可能であるが、データ転送を行なう「データセッション」はサーバからクライアントに対して確立しようとして失敗する。これは、クライアントからサーバへの方向はストリームが流れるため、最初の「コントロールセッション」は確立する。

しかし、コントロールセッションのサーバから見たエンドホストはゲートウェイであるため、サーバは、「データセッション」をゲートウェイに対して確立しようとするが、ゲートウェイはこのセッション用にパッシブオープンしていないために確立失敗となる。

【 0 0 1 1 】

f t pに限っていえば、クライアントソフトの” passive mode”を利用することによって、この問題を回避できる。しかし、その他にも2段階構成のコネクション確立を行なうプロトコルは存在するし、今後増えていくことを考えると、サービスのスケーラビリティに課題が残るといえる。

このように、従来型T C P終端装置を経路上に持つエンドーエンドにおいては、I Pパケットもしくはストリームの到達性に問題があり、「エンドーエンドのグローバルコネクティビティの保証」ができない。

【 0 0 1 2 】

従来型T C P終端装置の問題点の一つである“エンドーエンド情報の非保存”についてまとめると、図2（a）（b）に示すようになる。

図2（a）に示すように、通常のI Pルータを通過してもI Pパケットヘッダ内のI Pアドレスおよびポート番号の情報は一切変化しない。

しかし、従来型T C P終端装置を通過すると（実際にはI Pパケットは一度ストリームに再構成されてから再びパケット化される）、図2（b）に示すように、そのI Pアドレスおよびポート番号は新たなエンドホストとしてゲートウェイのI Pアドレスおよびポート番号に置き換わる。

現在、多くのアプリケーションゲートウェイやプライベートアドレスとグローバルアドレスの変換を行なうN A Tルータでは、このような問題を回避するために、アプリケーションプロトコル毎に個別の対応をして、サーバからのT C PパケットやU D Pパケットを本来のクライアントに送付する仕組みを提供している

しかし、その他のアプリケーションプロトコルにおいても、最初のセッションから、クライアントのIPアドレスを取得して、その情報を元にサーバからクライアントに対してTCPコネクションを張ることやUDPパケットを送付することは少なくない。さらに、新たなアプリケーションプロトコルの出現に応じて、逐一对応しなければならないという問題があり、サービスに対するスケーラビリティがない方式といえる。

【0013】

本発明は、上記事情を考慮してなされたものであって、本発明は、性質の異なるネットワークを跨るTCPコネクションにおいて、効率の良い伝送を行なうために、TCP終端の仕組みを採り入れつつ、インターネットの性質として重要なグローバルコネクティビティを保証したTCPコネクションを終端させる機能を備えたIPルータ装置を実現することである。

【0014】

【課題を解決するための手段】

図1は、本発明の概要を説明する図である。同図において、11a, 11bはネットワークドライバ、12a, 12bはIPスタック、13a, 13bはTCPスタック、14はストリーム転送手段、15はTCPコネクション管理データベース、16はIPフォワーディングである。

本発明のIPルータ装置の基本部分の構成は従来型のアプリケーションゲートウェイと同様であるが、前記図17に示した従来型のアプリケーションゲートウェイに対して本発明では以下の点が追加・変更されている。

(a) IPスタック12a, 12bにおけるTCP/IPパケットヘッダ内情報の変換手段(図1の変換手段1~4)とそれ用のデータベース(図1のTCPコネクション管理データベース15)を設けた点。

(b) ストリーム転送手段14におけるTCP接続先IPアドレスとポート番号の抽出機能を設けた点。

TCP/IPパケットヘッダ内情報変換手段1~4は入力パケットと出力パケットに対する処理としてそれぞれ存在する。これらは、各ネットワークドライバ

(ネットワークインターフェース) 11a, 11bについて個別に動作する。ただし、各変換機能1～4は、共通のTCPコネクション管理データベース15を介して連携し、一つのTCPコネクションに対して一意の変換規則にしたがって処理が実行される。

ストリーム転送手段14は、従来型のアプリケーションゲートウェイのそれと比較して、クライアントとのTCPコネクションの情報を元に、TCP接続先アドレスとポート番号の抽出を行なう機能を有する。

【0015】

図1に示すように本発明においては、次のようにして前記課題を解決する。

(1) TCPコネクションを終端させる機能を備えた複数の異なるIPネットワークを接続するルータ装置において、該ルータ装置に、中継しようとするTCPコネクションを形成する複数のIPパケットが前記ルータ装置を通過しようとする際に、パケット内のIPアドレス情報およびポート番号情報の一部を所定の規則に従い書き換える第1の変換手段(図1の変換機能1, 2)と、前記TCPコネクションの本来の接続先を示す情報を抽出し、前記ルータからその接続先へTCPコネクションを生成し、前記2つのTCPコネクションをストリームで連結する手段14と、上記本来の接続先へのTCPコネクションについて、それを形成する複数のIPパケット内のIPアドレス情報およびポート番号情報の一部を所定の規則に従い書き換える第2の変換手段(変換機能3, 4)とを設け、上記第1、第2の変換手段は、上記2つのTCPコネクションを1組として取り扱い、上記1組のTCPコネクションに対して一意の識別番号を付与して管理データベース15に格納し、該データベース15に格納された一意の識別番号により、2つのTCPコネクションを管理する。

(2) 上記(1)において、第1、第2の変換手段は、TCPスタックからのTCPコネクションの終了の通知を受けて、上記データベースに格納している識別番号の情報を作成、消去もしくは、更新する。

(3) 上記(1)または(2)において、第1、第2の変換手段は、TCP以外のIPパケットについては、IPパケット内の情報の書き換えを行わず、所定のネットワークにルーティングする。

(4) 上記(1)(2)(3)において、第1、第2の変換手段は、所定のコネクション数を超えた新たなTCPコネクションのIPパケットについて、IPパケット内の情報の書き換えを行わず、所定のネットワークにルーティングする。

(5) 上記(1)～(4)において、第1、第2の変換手段は、所定の型をパケット内のヘッダ情報として持つICMPパケットについて、そのIPアドレス情報およびポート番号情報、および、パケットデータ内に含まれるTCP/IPのヘッダ情報の一部を書き換える。

なお、上記第1、第2の変換手段、ストリームを連結する手段が、TCPコネクションの1組に対してそれぞれ1つの識別番号を付与し、それを複数管理するように構成することもできる。これにより、複数のTCPコネクションのサポートが可能となる。

【0016】

図2に本発明と従来型のIPルータ装置、従来型のアプリケーションゲートウェイにおける前後のパケット情報を示す。

図2(a)は前記した通常のIPルータを通過した前後のパケットヘッダ内のIPアドレスとポート番号の情報を示す。ここでは、ルータを通過することによって、何らアドレスおよびポート番号情報に変化がないという特徴を持つ。これが、上述の「グローバルコネクティビティの保証」を意味する。

一方、図2(b)は前記した通常のアプリケーションゲートウェイを通過した前後のパケットヘッダ内のIPアドレスとポート番号の情報を示す。アプリケーションゲートウェイを境にパケットヘッダ内の情報が変化していることがわかる。従って、「グローバルコネクティビティの保証」ができなくなる。

本発明では、図2(c)に示すように、TCPコネクションを終端するものの、パケットヘッダ内のIPアドレスとポート番号の情報には変化がない。従って、両エンドホストからは、通常のIPルータと全く同様に、TCPコネクションを実現できる。その結果グローバルコネクティビティについても保証される。

【0017】

【発明の実施の形態】

図 3 に本発明を装置として実現した場合の構成例を示す。

通常、汎用コンピュータ上の主記憶装置 1 0 2 もしくは補助記憶装置 1 0 3 上に本発明の機能を実現するためのソフトウェアが記憶され、CPU 1 0 1 で本発明の処理が実行される。図 3 に示す装置には 2 つ以上のネットワークインターフェース 1 0 4 が搭載され、異なるネットワークを連結したものとなる。なお、ネットワークインターフェースとしては、イーサネットのみならずシリアル回線上の PPP などを含む。

【 0 0 1 8 】

図 4 に本発明の実施例の IP ルータ装置の構成を示す。

本実施例の IP ルータ装置は、IP スタック内で TCP コネクションの情報を管理してパケットヘッダの情報を変換する変換手段と、アプリケーション層において、2 つの TCP コネクションをストリームレベルで接続する手段に大別される。

同図において、2, 3 はそれぞれホストであり、ここでは同図に示すようにホスト 1 の IP アドレスは a 1、アプリケーションのクライアントポート番号（動的にアサイン）は p 1、ホスト 2 の IP アドレスは a 4、アプリケーションサーバのサーバポート番号（アプリケーションサーバ毎に固定値）は p 4 であるとする。

【 0 0 1 9 】

1 は本実施例の IP ルータ装置であり、図 4 に示すように IP ルータの IP アドレスは a 2, a 3、ストリーム転送ソフトのサーバポート番号（固定値）は p 2、ストリーム転送ソフトのクライアントポート番号（動的にアサイン）は p 3 であるとする。

IP ルータ装置 1 はネットワークドライバ 1 1 a, 1 1 b、IP スタック 1 2 a, 1 2 b、TCP スタック 1 3 a, 1 3 b、2 つの TCP コネクションをストリームで連結する機能を備えたストリーム転送手段 1 4 を備え、ストリーム転送手段 1 4 は TCP コネクションの本来の接続先である接続先 IP アドレスを抽出する機能を備えている。

1 5 は TCP コネクションを管理するデータベースであり、上記 IP スタック

12a, 12bは該データベース15と連携してパケットヘッダの変換を行う。
また、IPフォワーディング16は、後述するようにIPスタックにおいて変換対象外となったIPパケットを前記図16に示した従来型ルータ装置と同様にIPルーティングする。

【0020】

図5にIPスタック内でパケットヘッダの変換を行なう機能とその規則、さらにTCPコネクション管理データベースと前記変換機能との連携を示す。

同図において、“src a1, p1”の“a1”は送信元のIPアドレス（src-IP）、“p1”は送信元のポート番号（src-ポート番号）を示し、“dst a4, p4”の“a4”は接続先のIPアドレス（dst-IP）、“p4”は接続先のポート番号（dst-ポート番号）を示し、変換機能1～4により、“src a1, p1”、“dst a4, p4”がそれぞれ「元」→「新」に変換されることを示している。また、p2”は前記したようにストリーム転送ソフトのサーバポート番号（固定値）、“pN”はTCPコネクション識別番号であり、コネクション毎に一意に割り振られる。

【0021】

図5の変換規則はルータを外から見た際には、図3で説明したパケット情報（ヘッダ内のIPアドレスとポート番号）に変化がないことを示し、一方で、ルータのアプリケーション層から見た際には、ストリーム転送機能が2つの終端したTCPコネクションをハンドリングできることを示している。一連の変換機能は以下の機能からなる。

（1）ネットワークドライバ11a, 11bからIPスタック12a, 12bに流入するIPパケットの処理（図6のフロー）。

（2）IPスタック12a, 12bからネットワークドライバ11a, 11bに流出するIPパケットの処理（図7のフロー）。

（3）TCPコネクション管理データベース15（以下管理データベースと略記する）のエントリー削除処理（図8のフロー）。

上記（1）（2）のIPパケットの処理において、IPスタック12a, 12bは図5に示す変換機能1～4により、IPパケットのヘッダ部のIPアドレス

、ポート番号を変換する（図9～図12のフロー）。

なお、図4においては、便宜上、ルータ内のIPスタックとTCPスタックを2つに分離して記述しているが、実施形態においては、インターフェースが複数あっても、IPスタックとTCPスタックは共通に存在し利用される。従って、上記パケット処理（1）は、変換機能1と変換機能4を含む。同様に、上記パケット処理（2）は、変換機能2と変換機能3を含む。

【0022】

従来型IPルータでは、流入するIPパケットの処理は、前記図21に示したように、dst-IPアドレスが自ホスト（ルータ自身）宛かどうかで判断し、自ホスト宛以外のIPパケットをIPフォワーディング経由でネットワークに出力する（IPルーティング）。

本実施例では、このIPルーティングの代わりにTCP終端を行なうので、自ホスト宛以外のIPパケットがTCPもしくはICMPならば、図4に示したように変換機能4もしくは変換機能1を通す（後述する図6のフロー）。それぞれの変換機能では、TCPコネクション管理データベース15に登録されたパケットを対象に、図5に示すようにIPアドレスおよびポート番号の変換を行ない、ルータ内のTCPスタック13aもしくは13bに引き渡す。また、上記管理データベース15に登録されていないパケットは変換対象外とする。

なお、変換機能1では、後述するように変換対象外となったIPパケットがTCPのSYNフラグ（通信確立要求フラグ）を持ち、新規にTCPコネクションを確立しようとしている場合は、データベースにエントリーを追加する。変換機能1はこの新規エントリ追加機能を有するために、変換機能4よりも後に処理される必要がある。

最終的に変換対象外となったIPパケット、つまり、UDPパケットや何らかの制限（後述のコネクション数制限など）に引っかかったTCPパケットは、従来型のIPルータと同様にIPフォワーディング16経由でIPルーティングする。

【0023】

また、流出するIPパケットの処理は、従来型IPルータでは前記図22に示

したようにdst-IPアドレスに従ったネットワークをルーティングテーブルから検索し、そのネットワークに出力する。

本実施例では、IPフォワーディング16経由で送られてきたパケット以外つまり、アプリケーション層からTCP/ICMP層に引き渡されてきたIPパケットを対象に、変換機能2もしくは変換機能3に渡し、図5に示すようにIPアドレスおよびポート番号の変換を行う。変換後は従来型IPルータと同様の処理を行ないネットワークに出力する。

【0024】

TCPコネクション管理用データベース15は、TCPコネクションをその生成から終了までの間管理し、コネクション毎に前記で述べた一意の識別番号（図5のpN）を割り振る。

上記管理用データベース15で管理するエントリは、図5に示すように項目A～Eの5つからなる。各エントリは、変換機能1における新規TCPコネクションの検出と同時に新規生成され、項目A～Dが割り当てられる。

さらに、変換機能3では、該当するTCPコネクションのIPパケットが通過する際に、図5に示すように項目Eが割り当てられる。これによって、変換機能1～4はデータベースのエントリと連携して、パケットヘッダ中のIPアドレスおよびポート番号を書換えることが可能となる。

上記管理用データベース15のエントリは、後述する図8のフローに示すように、TCPスタックにおいてTCPコネクションがクローズされるのと同期して削除される。すなわち、TCPコネクションクローズ時、TCPスタックは、TCPコネクションの識別番号をとめない上記管理用データベース15内のコネクション終了処理ルーチンと呼び出す。上記処理ルーチンでは、識別番号からエントリを検索し、データベースからそれを削除する。

【0025】

管理データベース15内でのコネクションを管理するためのエントリは、上述のとおり、TCPパケットのSYN（通信確立要求）が来たときに新規に作成し、TCPスタックのクローズ処理からの呼び出しを受けて、エントリを削除する。これは、TCPスタックが動作するごとく、コネクションの存在に関わるすべ

でのTCPシーケンス〔SYN（通信確立要求）、FIN（終了要求）、RST（強制終了）〕を追う必要がないのでコネクションを管理する処理を大幅に簡略化できる。

【0026】

ストリーム転送手段14は後述する図13のフローに示すようにストリーム転送を行う。

前記図23に示した従来型アプリケーションゲートウェイで使用される典型的なストリーム転送機能と、本実施例のストリーム転送機能で異なる点は、接続すべきサーバのIPアドレスとポート番号の取得方法にある。

従来型アプリケーションゲートウェイにおいては、クライアントとのストリーム中にその情報を提示する方式が一般的である。例えば、アプリケーションゲートウェイの一つであるhttpプロキシでは、そのストリーム中に以下に示すように“www.nic.ad.jp”というIPアドレスを得るためのホスト情報と“80”というポート番号が記述される。

GET/HTTP/1.0（エンドーエンド通信時）

GET http://www.nic.ad.jp:80/HTTP/1.0（プロキシ使用時）

【0027】

一方、本実施例では、前記図5に示したように変換機能1の後ろにIPパケット内に本来の接続先の情報（図5における“dst a4”）が残るため、ストリーム転送機能では、ソケットの接続先情報を取得する関数を用いて、接続すべきサーバのIPアドレスを取得できる。

なお、ポート番号については、変換機能1において、ストリーム転送機能のサーバソケットのサーバポート（図5の“p2”）に書き換えるために、ストリーム転送機能においては本来の値は取得できない。しかし、図5に示したように変換機能1において、ソケットのsrcポート番号にTCPコネクションの識別番号（PN）が埋め込まれるので、これを、サーバへのTCPコネクションのポート番号として用いる。

このポート番号の情報は、TCPパケットが変換機能3を通過する際に、図5

に示したように本来の接続先であるサーバのポート番号（図5の”p4”）に書き換えられる。ちなみに、変換機能3では、dst-ポート番号だけでなく、src-IPアドレス、src-ポート番号も書き換えを行なうので、ストリーム転送機能が動的なポート番号を割り振るクライアントソケットを使用しても、サーバからは常に本来のクライアントの割り振ったIPアドレスとポート番号が見える。

【0028】

以下図6～図13のフローチャートにより、上述した処理について説明する。

図6は前記（1）のIPスタックにおけるIPパケットの入力処理を示す図である。

IPスタックにネットワークドライバからIPパケットが流入すると、dst-IPアドレスが自ホスト宛であるかを調べ（ステップS1）、自ホスト宛であればIPパケットを自ホストのTCP/IPスタックに引き渡し（ステップS2）処理を終了する。また、dst-IPアドレスが自ホスト宛でない場合には、TCPもしくはICMPパケットであるかを調べ（ステップS3）、TCPもしくはICMPパケットでなければ、IPフォワーディング16経由でIPパケットの出力処理に引き渡す（ステップS4）。

【0029】

また、IPパケットがTCPもしくはICMPパケットの場合にはステップ5に行き変換機能4（後述する図12のフロー）によりTCP/IPパケット内のIPアドレス、ポート番号を例えば図5の変換機能4に示すように変換する。そして変換されたか否かを判別し（ステップS6）、変換された場合には自ホストのTCP/IPスタックに引き渡し（ステップS2）処理を終了する。

また、変換されなかった場合には、変換機能1（図9のフロー）によりTCP/IPパケット内のIPアドレス、ポート番号を例えば図5の変換機能1に示すように変換する。そして変換されたか否かを判別し（ステップS8）、変換されなかった場合には、IPフォワーディング16経由でIPパケットの出力処理に引き渡す（ステップS4）。変換された場合には、自ホストのTCP/IPスタックに引き渡し（ステップS2）処理を終了する。

【 0 0 3 0 】

図 7 は前記 (2) の I P スタックにおける I P パケットの出力処理を示す図である。

I P パケットが I P スタックに流入すると、I P パケットが I P フォワーディング 1 6 経由で送られてきたものか調べる (ステップ S 1) 。 I P パケットが I P フォワーディング 1 6 経由で送られてきたものである場合にはステップ S 6 にいき、d s t - I P アドレスもしくはそのサブネットワークで、ルーティングテーブルを検索し (ステップ S 6) 、該ルーティングテーブルに従い、ネットワークドライバに I P パケットを引き渡す。

I P パケットが I P フォワーディング 1 6 経由で送られてきたものでない場合には、T C P もしくは I C M P パケットかを調べ (ステップ S 2) 、T C P もしくは I C M P パケットでない場合にはステップ S 6 に行き、上記処理を行う。

【 0 0 3 1 】

I P パケットが T C P もしくは I C M P パケットの場合には、変換機能 2 (図 1 0 のフロー) により T C P / I P パケット内の I P アドレス、ポート番号を例えば図 5 の変換機能 2 に示すように変換する (ステップ S 3) 。そして変換されたか否かを判別し (ステップ S 4) 、変換された場合には、ステップ S 6 に行く。またステップ変換機能 2 により変換されなかった場合には、変換機能 3 (図 1 1 のフロー) により T C P / I P パケット内の I P アドレス、ポート番号を変換する (ステップ S 5) 。そして、ステップ S 6 に行き、上記のように d s t - I P アドレスもしくはそのサブネットワークで、ルーティングテーブルを検索し (ステップ S 6) 、該ルーティングテーブルに従い、ネットワークドライバに I P パケットを引き渡す。

【 0 0 3 2 】

図 8 は前記 (3) に示した管理データベース 1 5 のエントリー削除処理を示す図である。

T C P スタック内のコネクションが終了すると、T C P スタック内のコネクション終了処理は、管理データベース 1 5 にコネクションの終了を通知する (ステップ S 1) 。これにより管理データベース 1 5 内のコネクション終了処理が呼び

出され、該コネクション終了処理はTCPコネクションの識別番号（前記した“pN”）からデータベース内のエントリを検索し（ステップS3）、該エントリをデータベースから削除する（ステップS4）。

一方、TCPスタック内のコネクション終了処理は、TCPコントロールブロックを削除する（ステップS2）。

【0033】

図9は、前記した変換機能1における処理を示す図であり、ネットワークドライバからIPスタックに流入するTCP/IPパケット内のsrc-IPアドレス、src-ポート番号、dst-IPアドレス、dst-ポート番号は変換機能1により次のように変換される。

まず、ステップS1において、管理データベース15内のエントリを検索し、TCP/IPパケット内のsrc-IPアドレスが管理データベース15内の項目A（図5参照）のIPアドレスに一致し、src-ポート番号が項目Aのポート番号に一致し、dst-IPアドレスが項目BのIPアドレスに一致し、dst-ポート番号が項目Bのポート番号に一致するエントリがあるかを調べる。

管理データベース15内に上記エントリが存在しない場合には、ステップS2からステップS3に行き、処理対象となるコネクションがコネクション数の制限内であるかを調べ、制限内でない場合には処理を終了する。この場合には、IPフォワーディング16経由でIPパケットの出力処理に引き渡される。

【0034】

コネクション数の制限内である場合には、管理データベース15内に新たなエントリを作成し（ステップS4）、上記エントリ内の項目Aにsrc-IPアドレスおよびsrc-ポート番号を登録する（ステップS5）。また、上記エントリ内の項目Bにdst-IPアドレスおよびdst-ポート番号を登録する（ステップS6）。例えば図5においては、項目Aに“a1, p1”が、項目Bに“a4, p4”が登録される。

さらに、上記エントリ内の項目C, DのIPアドレスに項目A, Bの複製を登録する。また、ポート番号にTCPコネクションの識別番号を登録する（ステップS7）。例えば図5においては、項目C, Dのポート番号に“pN”が登録さ

れる。

【 0 0 3 5 】

ついで、TCP/IPパケット内のsrc-ポート番号に項目Cのポート番号を設定し（ステップS8）、TCP/IPパケット内のdst-ポート番号にストリーム転送ソフトのサーバポート番号を設定する（ステップS9）。そして、IPパケットのチェックサムを計算しなおして（ステップS10）、処理を終了する。

また、ステップS2において、ステップS1の条件を満たすエントリが存在すると判別された場合には、ステップS2からステップ8に行き、上記ステップS8～ステップ10の処理を行う。

上記処理により、例えば図5においては、同図の変換機能1の「新」に示すように、src-IPアドレス、src-ポート番号にそれぞれa1, pNが設定され、dst-IPアドレス、dst-ポート番号にそれぞれa4, p2が設定される。

【 0 0 3 6 】

図10は、前記した変換機能2における処理を示す図であり、IPスタックからネットワークドライバに流出するTCP/IPパケット内のsrc-IPアドレス、src-ポート番号、dst-IPアドレス、dst-ポート番号は変換機能2により次のように変換される。

まず、ステップS1において、管理データベース15内のエントリを検索し、TCP/IPパケット内のdst-IPアドレスが管理データベース15内の項目CのIPアドレスに一致し、dst-ポート番号が項目Cのポート番号に一致するエントリが存在するかを調べる。

【 0 0 3 7 】

管理データベース15内に上記エントリが存在しない場合には、処理を終了する。また、上記エントリが存在する場合には、ステップS2からステップS3に行き、TCP/IPパケット内のsrc-ポート番号に項目Bのポート番号を設定し（ステップS3）、TCP/IPパケット内のdst-ポート番号に項目Aのポート番号を設定する（ステップS4）。そして、IPパケットのチェックサ

ムを計算しなおして（ステップS5）、処理を終了する。

上記処理により、例えば図5においては、同図の変換機能2の「新」に示すように、src-IPアドレス、src-ポート番号にそれぞれa4, p4が設定され、dst-IPアドレス、dst-ポート番号にそれぞれa1, p1が設定される。

【0038】

図11は、前記した変換機能3における処理を示す図であり、IPスタックからネットワークドライバに流出するTCP/IPパケット内のsrc-IPアドレス、src-ポート番号、dst-IPアドレス、dst-ポート番号は変換機能3により次のように変換される。

まず、ステップS1において、管理データベース15内のエントリを検索し、TCP/IPパケット内のdst-IPアドレスが管理データベース15内の項目DのIPアドレスに一致し、dst-ポート番号が項目Dのポート番号に一致するエントリが存在するかを調べる。

【0039】

管理データベース15内に上記エントリが存在しない場合には、処理を終了する。また、上記エントリが存在する場合には、ステップS2からステップS3に行き、TCP/IPパケット内のsrc-IPアドレスに項目AのIPアドレスを設定し（ステップS3）、TCP/IPパケット内のsrc-ポート番号に項目Aのポート番号を設定し（ステップS4）、TCP/IPパケット内のdst-ポート番号に項目Bのポート番号を設定する（ステップS5）。そして、IPパケットのチェックサムを計算しなおす（ステップS6）。

ついで、上記エントリが項目Eに登録済であるかを調べ（ステップS7）、登録されていないならば、上記エントリの項目Eにsrc-IPアドレス、src-ポート番号を登録して（ステップS8）処理を終了する。

上記処理により、例えば図5においては、同図の変換機能3の「新」に示すように、src-IPアドレス、src-ポート番号にそれぞれa1, p1が設定され、dst-IPアドレス、dst-ポート番号にそれぞれa4, p4が設定される。また、管理データベース15の項目Eに”a3, p3”が登録される。

【 0 0 4 0 】

図 1 2 は、前記で述べた変換機能 4 における処理を示す図であり、ネットワークドライバから IP スタックに流入する TCP/IP パケット内のヘッダ部の *s r c* - IP アドレス、*s r c* - ポート番号、*d s t* - IP アドレス、*d s t* - ポート番号は変換機能 4 により次のように変換される。

まず、ステップ S 1 において、管理データベース 1 5 内のエントリを検索し、TCP/IP パケット内の *s r c* - IP アドレスが管理データベース 1 5 内の項目 B の IP アドレスに一致し、*s r c* - ポート番号が項目 B のポート番号に一致し、*d s t* - IP アドレスが項目 A の IP アドレスに一致し、*d s t* - ポート番号が項目 A のポート番号に一致するエントリがあるかを調べる。

管理データベース 1 5 内に上記エントリが存在しない場合には、処理を終了する。また、上記エントリが存在する場合には、ステップ S 2 からステップ S 3 に行き、TCP/IP パケット内の *s r c* - ポート番号に項目 D のポート番号を設定し（ステップ S 3）、TCP/IP パケット内の *d s t* - IP アドレスに項目 E の IP アドレスを設定し（ステップ S 4）、TCP/IP パケット内の *d s t* - ポート番号に項目 E のポート番号を設定する（ステップ S 5）。そして、IP パケットのチェックサムを計算しなおし（ステップ S 6）、処理を終了する。

上記処理により、例えば図 5 においては、同図の変換機能 4 の「新」に示すように、*s r c* - IP アドレス、*s r c* - ポート番号にそれぞれ *a 4* , *p N* が設定され、*d s t* - IP アドレス、*d s t* - ポート番号にそれぞれ *a 3* , *p 3* が設定される。

【 0 0 4 1 】

図 1 3 は前記で述べたストリーム転送機能の処理フローを示す図である。

本実施例におけるストリーム転送機能は、前記図 2 3 に示した従来型ストリーム転送機能と同様であるが、前述したようにソケットの接続先情報を取得する関数を用いて接続すべきサーバの IP アドレスを取得する。

すなわち、図 1 3 のフローに示すように、サーバソケットとして TCP コネクションの接続を待ち（ステップ S 1）、クライアントと TCP コネクションを確立する（ステップ S 2）。ついで、クライアントルータ間の TCP コネクショ

ン情報からdst-IPアドレスおよびsrc-ポート情報を取得し（ステップS3）、クライアントソケットとして、上記接続先にTCPコネクションを確立する（ステップS4）。

そして、ストリームが継続しているかを判断し（ステップS5）、継続していない場合には処理を終了する。また、継続している場合には、クライアントとのストリームから一定量以下のデータを読み出し（ステップS6）、サーバとのストリームへ前記データを書き出す（ステップS7）。

【0042】

上述の説明は、基本的にはひとつのエンドーエンドのTCPコネクションを実現するための実施例についてであるが、データベースのエントリを複数管理し、TCPコネクションに割り当てる識別番号を管理TCPコネクション線数内で一意に割り振ることによって、複数のTCPコネクションのサポートが実現可能である。

TCPコネクション識別番号は、初期値（1024など）から1ずつ増加させ、管理TCPコネクション数の範囲を超えた場合、所定の値で初期値に戻すことによって実現できる。この際に、使用しようとする識別番号が使用中ならばさらに1増加させる。

【0043】

従来型のアプリケーションゲートウェイでは、IP層でのパケットルーティングを行なわない。そのために、UDPやICMPなどTCP以外のIPパケットについては、専用の処理を必要としていた。本実施例のルータ装置においては、前述した図6、図7に示したようにTCPパケットだけ（ICMPパケットについては後述する）をルータ内のTCP層に引き渡す仕組みを備えるので、それ以外のIPパケットは従来型IPルータと同様にIPルーティングされる。従って、TCPコネクション以外についてもグローバルコネクティビティが保証される。

【0044】

また、従来型のアプリケーションゲートウェイでは、TCPの制御用にバッファを必要とするので、コネクション数が増大するに比例して、メモリ使用量も増

大する。これは、通常のIPルーティングに比べると大きなものなので、無制限にTCP終端することはシステムのメモリを多量に消費することにつながり、装置の価格を上昇させるデメリットを生じさせる。

本実施例のルータ装置においては、前記図9で説明した変換機能1に示すように、データベースにおいてsrc-IPアドレス毎にコネクション数の管理をしている。そして、新規コネクションに対するエントリを作ろうとするとき、あらかじめ決めてある制限数と現在管理しているコネクション数を比較し、制限数を超えた場合は新たなエントリを作成せず、その後のIPパケットはすべて、IP層でのIPフォワーディング対象となる。

これは、コネクション数の一時的あるいは定常的な増加に伴うシステムの性能低下や停止を防ぐ効果をもたらす。さらに、装置を設計する上で必要なメモリ量やCPU能力を規定することも可能となる。

【0045】

ところで、本実施例においては、所定のICMPパケットについても本実施例のルータ装置内で終端させるようにした。ここで、所定のICMPパケットとは、そのデータ部にTCPヘッダを含むもので、具体的には、前記図20に示したようにICMPヘッダタイプが、3～5、11、12が対象となる。

すなわち、ICMPパケットは前記図20に示したようなパケットヘッダを持ち、そのデータ部にIPヘッダとその上位層（TCPなど）ヘッダを格納して送る。ここで、図14に示すように、ホストAから本実施例のルータ装置を通過し、別のルータもしくは終点のホストの到達した際に何らかのエラーが生じた場合、ICMPパケットによってそのエラーをパケット送信ホストに通知することがある。

【0046】

その際は、ICMPパケットのデータ部にエラーの原因となったIPパケットの一部を直接挿入する。TCPコネクションを構成するIPパケットに生じたエラーについては、実際のTCPコネクションの終端ホスト（ここでは、本実施例のルータ装置）に対して、通知されるべきである。

なぜならば、ICMPデータ部に挿入されたTCPヘッダに含まれるシーケン

ス番号の情報が本実施例のルータ装置で区切られた2つのTCPコネクションで異なり、ICMPでの通知によって情報の不整合が生じてしまうからである。

しかし、本実施例のルータ装置では両エンドのホストに対して、グローバルコネクティビティを保証する動作をしているため、ICMPパケットを生成するホスト（もしくはルータ装置）は、図14のホストAに送付しようとしてしまう。

【0047】

そこで、本発明では、TCPコネクションだけではなくて、所定のICMPパケットについても、本発明ルータ内で終端するようにした。

ICMPパケットを終端する（すなわち、ヘッダ変換する）ためには通常のTCPパケットと同様にコネクションによるエントリ検索が必要である。ただし、図14に示すようにICMPパケットの進行方向とそのデータ部に含むTCPパケットの進行方向は逆であるので、データ部のIPおよびTCPヘッダ内のsrc情報とdst情報を反転した上で、検索および変換を行なう必要がある。

更に、変換後はそれらを元に戻す。また、この変換にともない、ICMPパケット包含するIPパケットのヘッダにおけるdst-IPアドレスも、前記ICMPデータ部に含むIPヘッダの反転後のdst-IPアドレスと同様に変換を行なう。

【0048】

ICMPパケットに対する処理を図15に示す。

図15において、まず、ICMPパケット内ペイロード（データ部）に格納されているIPパケットおよびTCPパケットのsrcとdstの内容を反転させる（ステップS1）。ついで、上記ICMP内のペイロード（データ部）内のIPパケットおよびTCPパケットのIPアドレスおよびポート番号の情報を元に管理データベース15のエントリを検索し、さらに、これらの情報におけるICMPを包含するIPパケットのdst-IPアドレスの情報について、変換機能4による変換を行う（ステップS2）。

そして、ICMPパケット内のペイロード（データ部）に格納されているIPパケットおよびTCPパケットのsrcとdstの内容を反転させる。

【0049】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、性質の異なるネットワークを跨るTCPコネクションにおいて、効率の良い伝送を行なうために、TCP終端の仕組みを採り入れつつ、インターネットの性質として重要なグローバルコネクティビティを保証したIPルータ装置（アプリケーションゲートウェイ）を実現することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の概要を説明する図である。

【図 2】

ルータ通過前後のIPパケットの情報変化とグローバルコネクティビティを説明する図である。

【図 3】

本発明が適用される装置の構成例を示す図である。

【図 4】

本発明の実施例のルータ装置の構成を示す図である。

【図 5】

本発明の実施例のルータ装置におけるIPパケット内情報の変換規則を説明する図である

【図 6】

本発明の実施例のIPスタックにおける入力処理フローを示す図である。

【図 7】

本発明の実施例のIPスタックにおける出力処理フローを示す図である。

【図 8】

本発明の実施例の管理データベースのエントリー削除処理フローを示す図である。

【図 9】

本発明の実施例の変換機能1の処理フローを示す図である。

【図 1 0】

本発明の実施例の変換機能 2 の処理フローを示す図である。

【図 1 1】

本発明の実施例の変換機能 3 の処理フローを示す図である。

【図 1 2】

本発明の実施例の変換機能 4 の処理フローを示す図である。

【図 1 3】

本発明の実施例のストリーム転送機能の処理フローを示す図である。

【図 1 4】

I P パケットの生成とペイロード情報の逆転を説明する図である。

【図 1 5】

本発明の実施例の I C M P パケットの変換処理フローを示す図である。

【図 1 6】

従来型 I P ルータ装置の構成を示す図である。

【図 1 7】

従来型 T C P 終端装置の構成を示す図である。

【図 1 8】

I P パケットのヘッダ構成を示す図である。

【図 1 9】

T C P パケットのヘッダ構成を示す図である。

【図 2 0】

I C M P パケットのヘッダ構成を示す図である。

【図 2 1】

従来型の I P ルータ装置における I P パケットの入力処理フローを示す図である。

【図 2 2】

従来型の I P ルータ装置における I P パケットの出力処理フローを示す図である。

【図 2 3】

従来型の T C P 終端装置におけるストリーム転送機能のフローチャートを示す

図である。

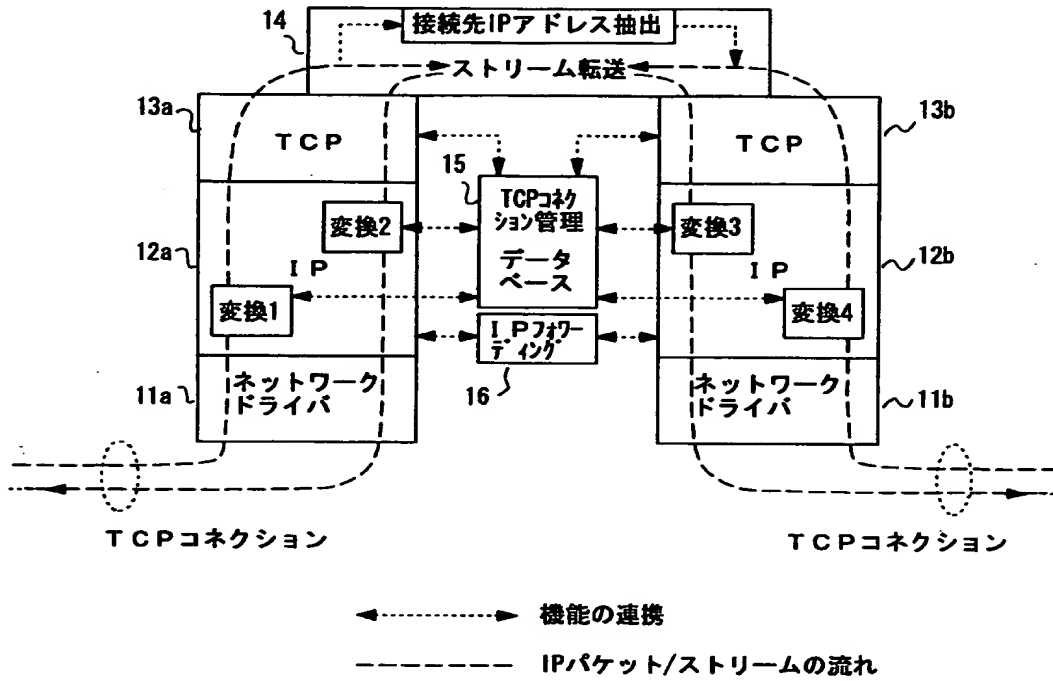
【符号の説明】

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| 1 | I P ルー タ 装 置 |
| 1 1 a, 1 1 b | ネ ッ ト ワ ー ク ド ラ イ バ |
| 1 2 a, 1 2 b | I P ス タ ッ ク |
| 1 3 a, 1 3 b | T C P ス タ ッ ク |
| 1 4 | ス ト リ ー ム 転 送 手 段 |
| 1 5 | T C P コ ネ ク シ ョ ン 管 理 デ ー タ ベ ー ス |
| 1 6 | I P フ ォ ワ ー デ ィ ン グ |

【書類名】 図面

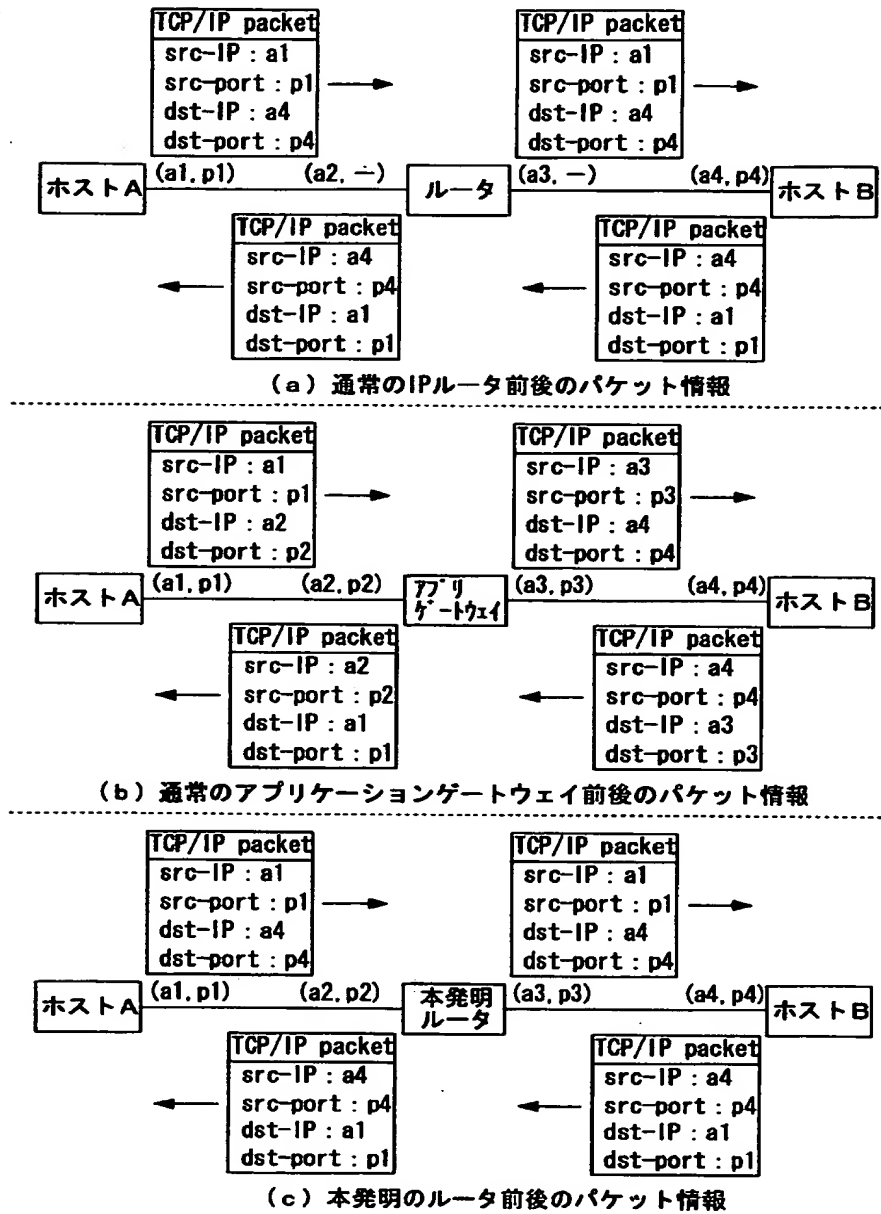
【図 1】

本発明の概要を説明する図



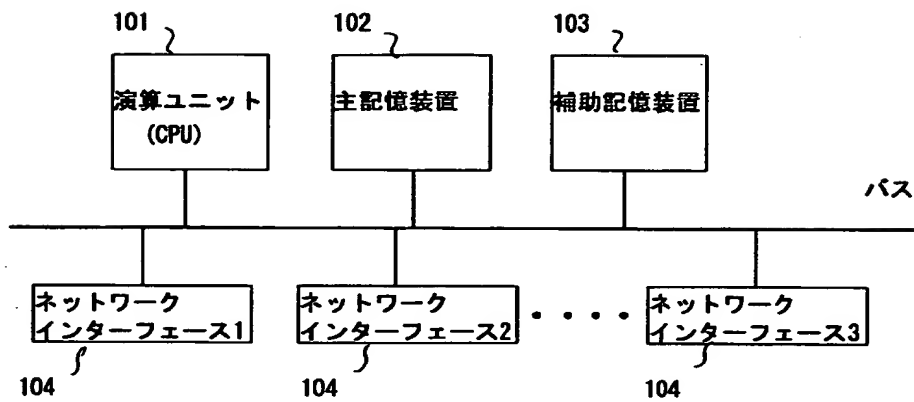
【図 2】

ルータ通過前後の IP パケットの情報変化と
グローバルコネクティビティを説明する図



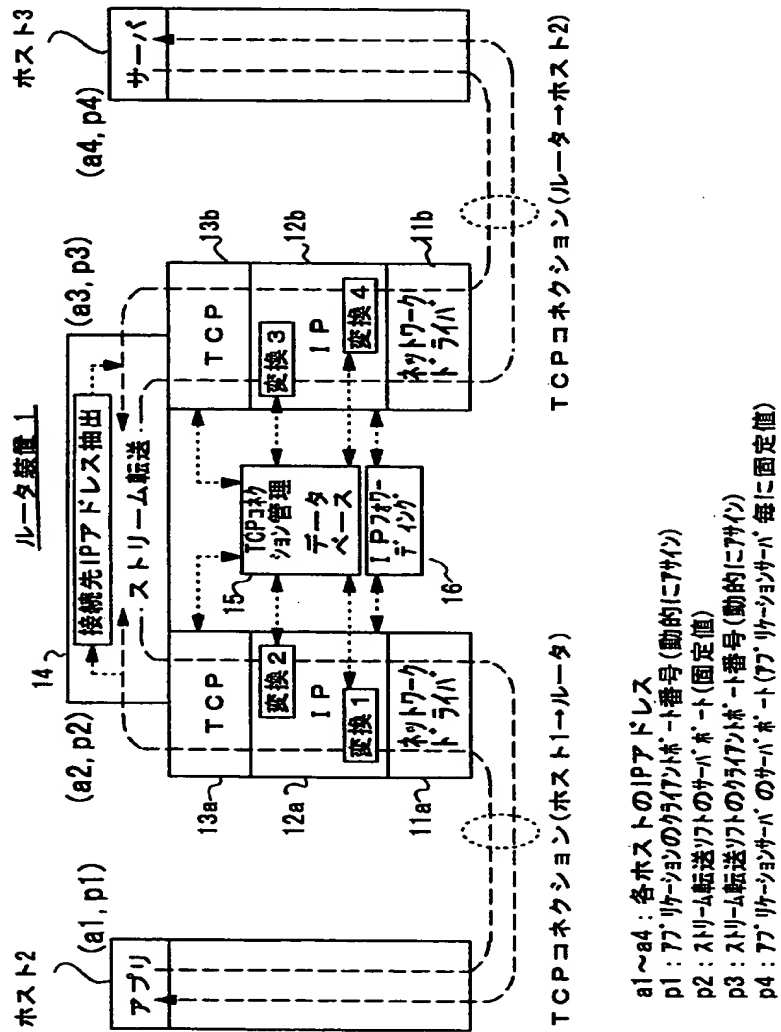
【図 3】

本発明が適用される装置の構成例を示す図



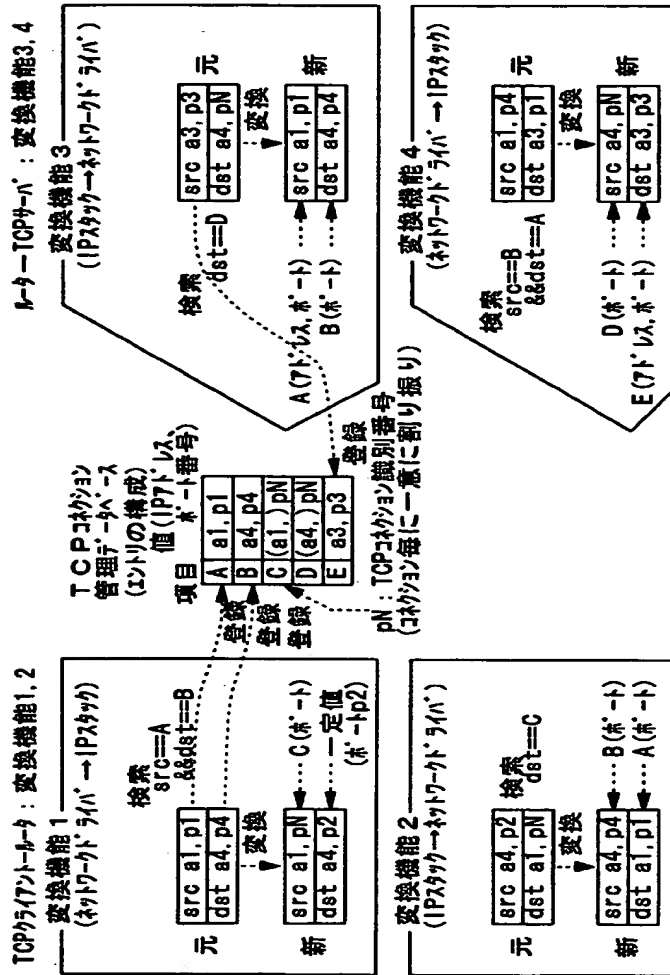
【図4】

本発明の実施例のルータ装置の構成を示す図



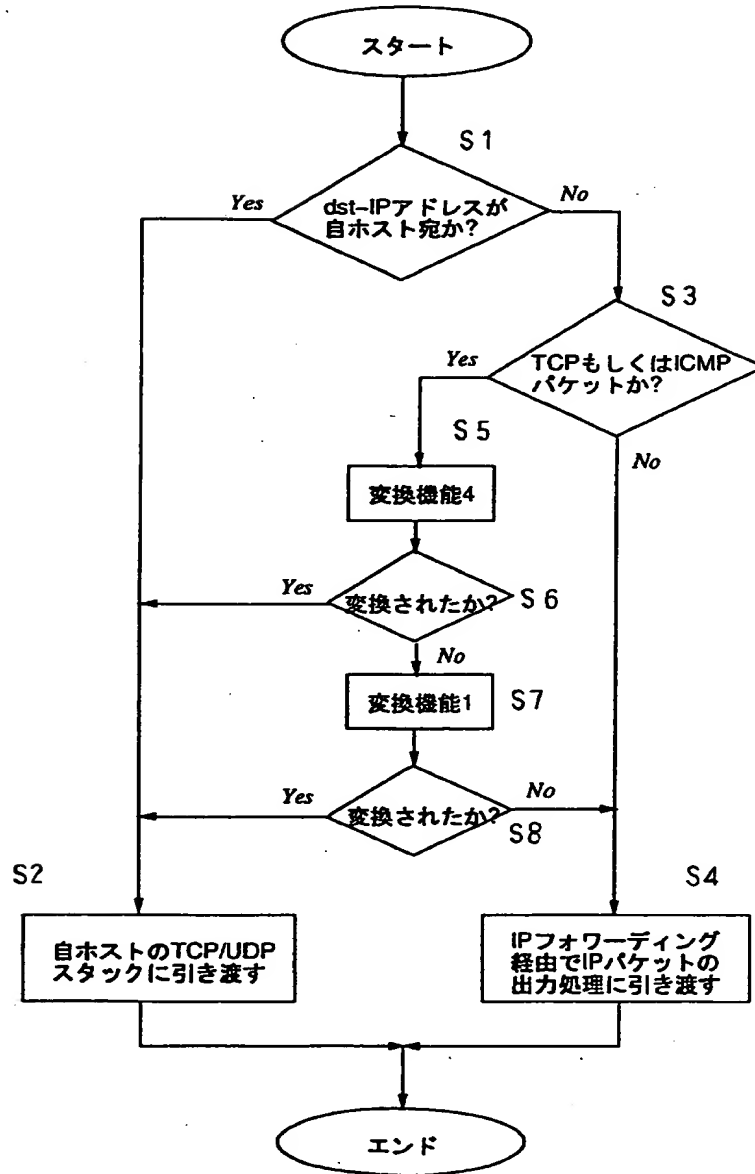
【図 5】

本発明の実施例のルータ装置における
IP パケット内情報の変換規則を説明する図



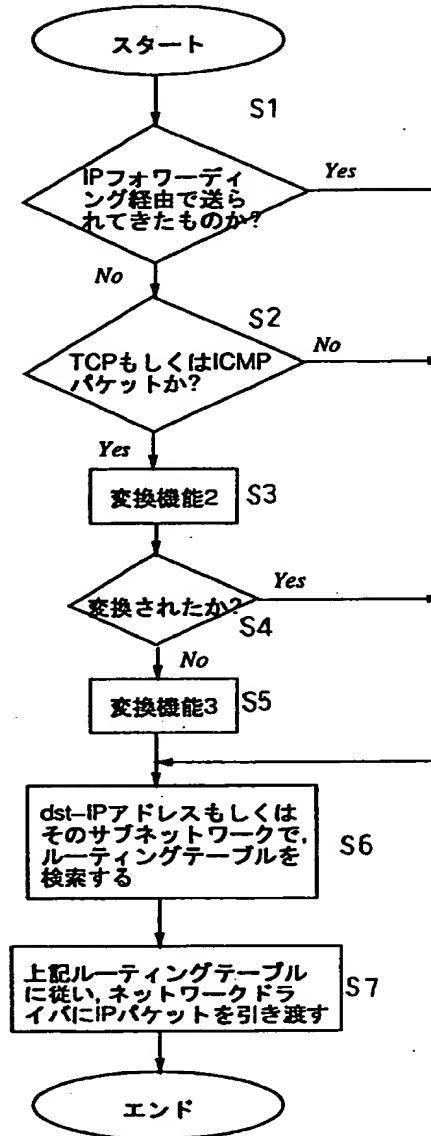
【図 6】

本発明の実施例の IP スタックにおける入力処理フローを示す図



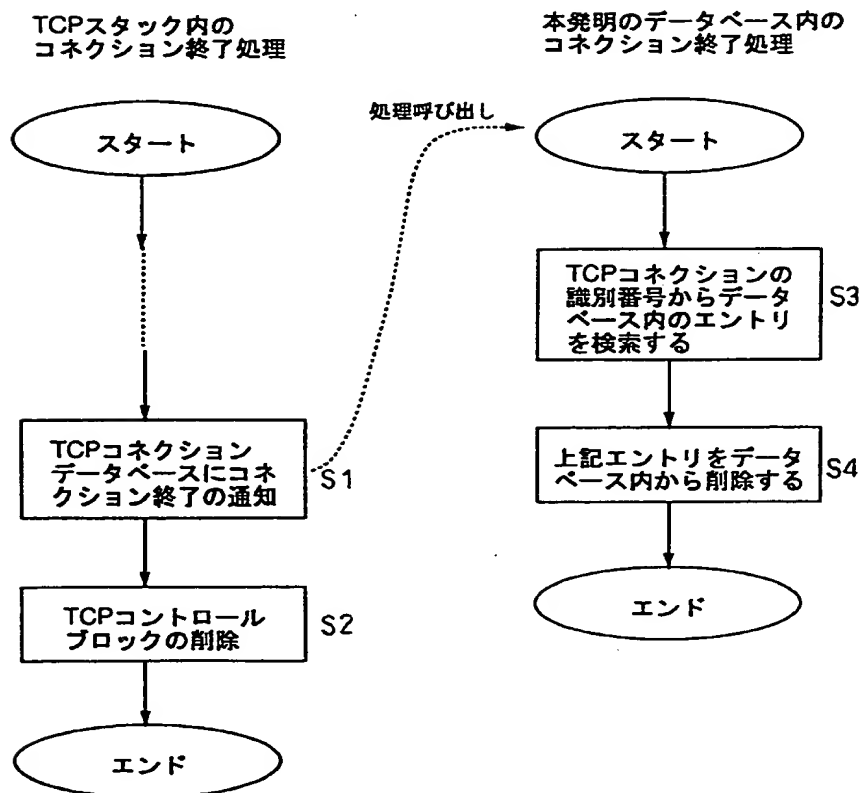
【図 7】

本発明の実施例の IP スタックにおける出力処理フローを示す図



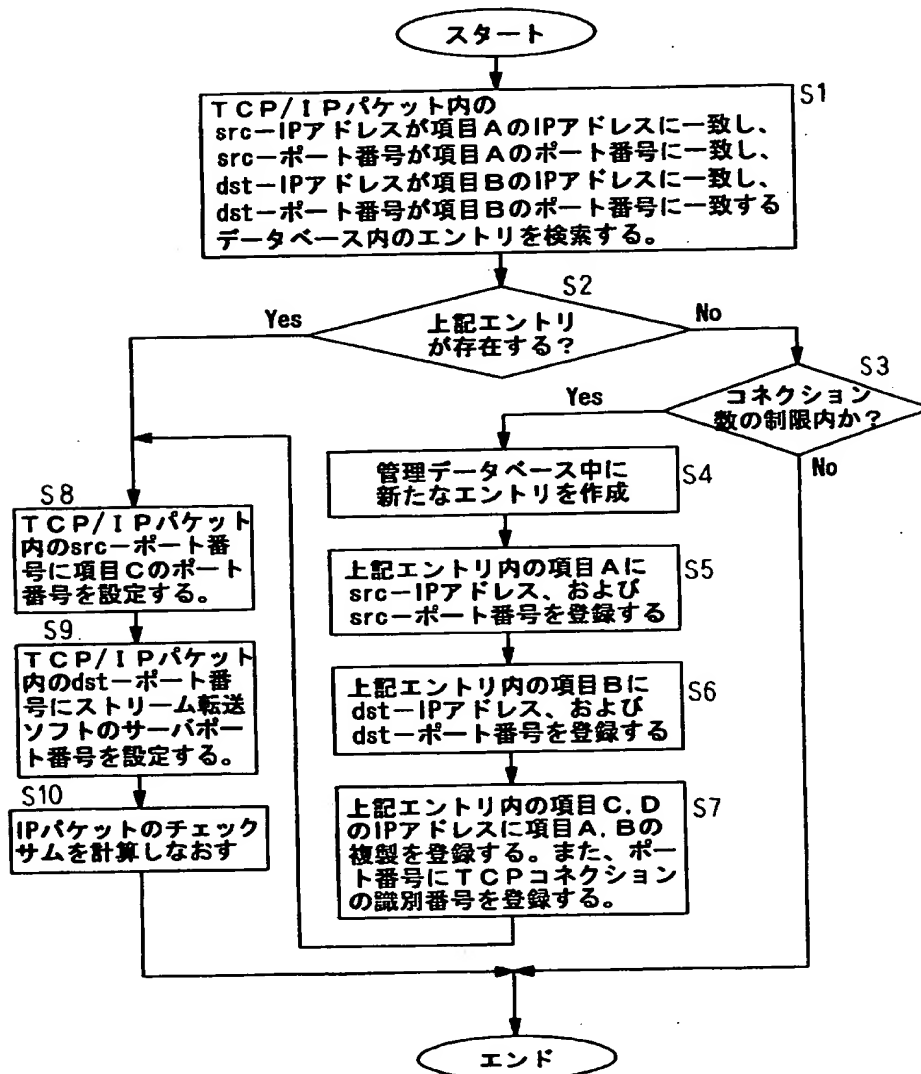
【図 8】

本発明の実施例の管理データベースのエントリ削除処理フローを示す図



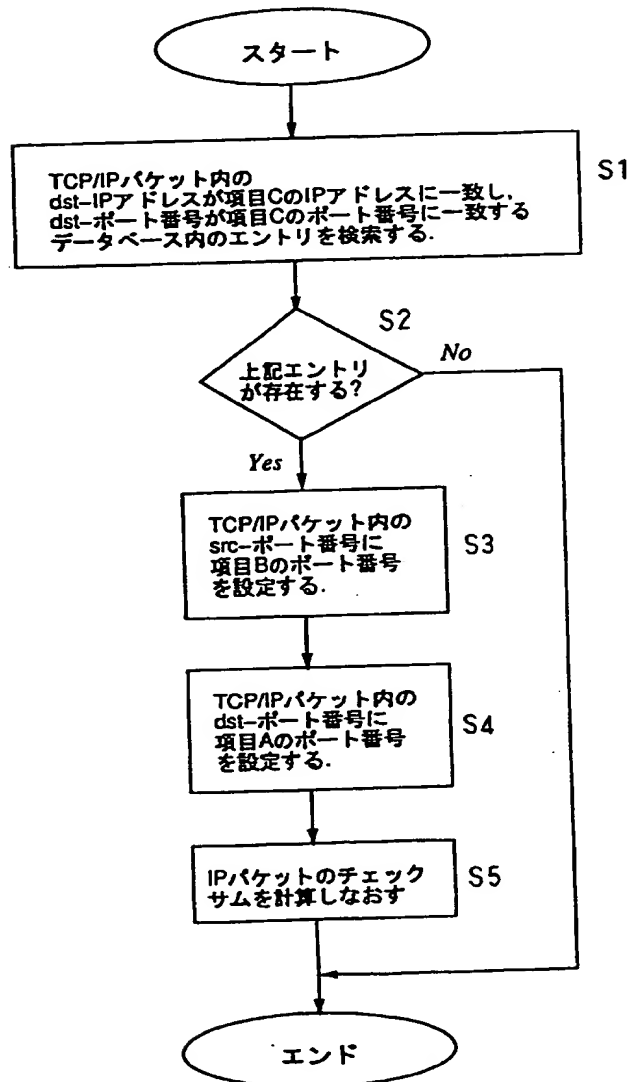
【図 9】

本発明の実施例の変換機能 1 の処理フローを示す図



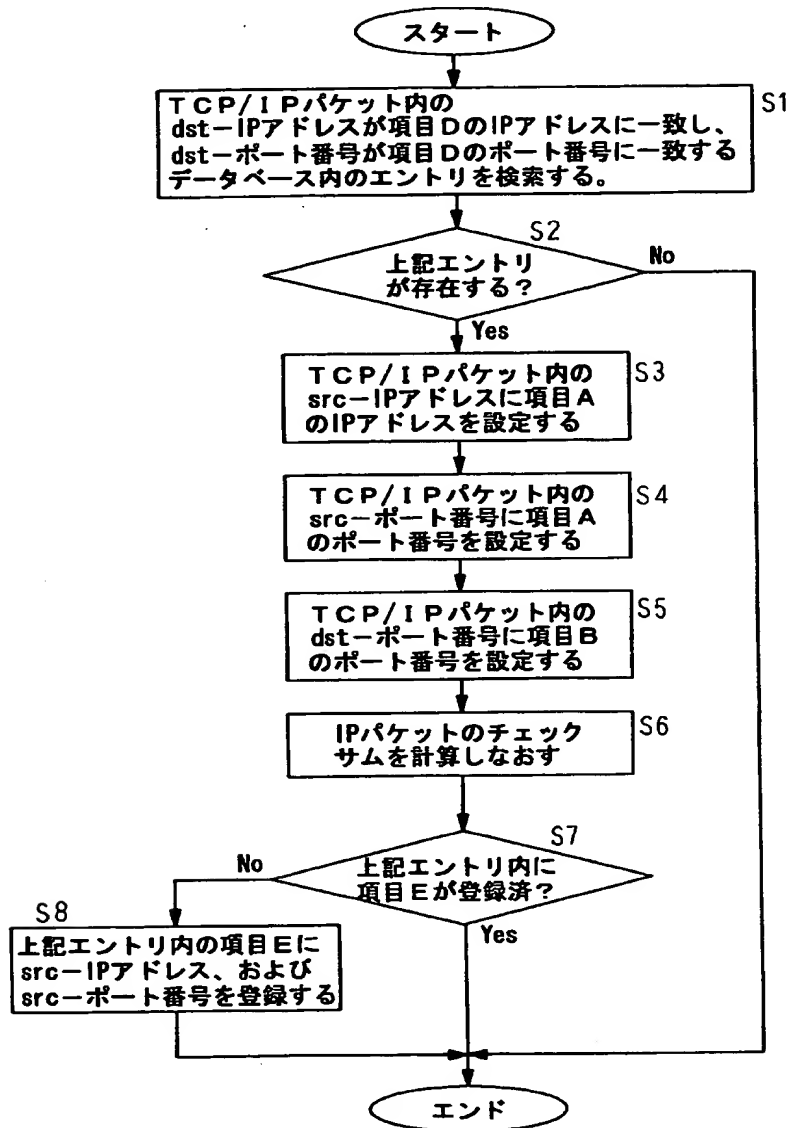
【図10】

本発明の実施例の変換機能2の処理フローを示す図



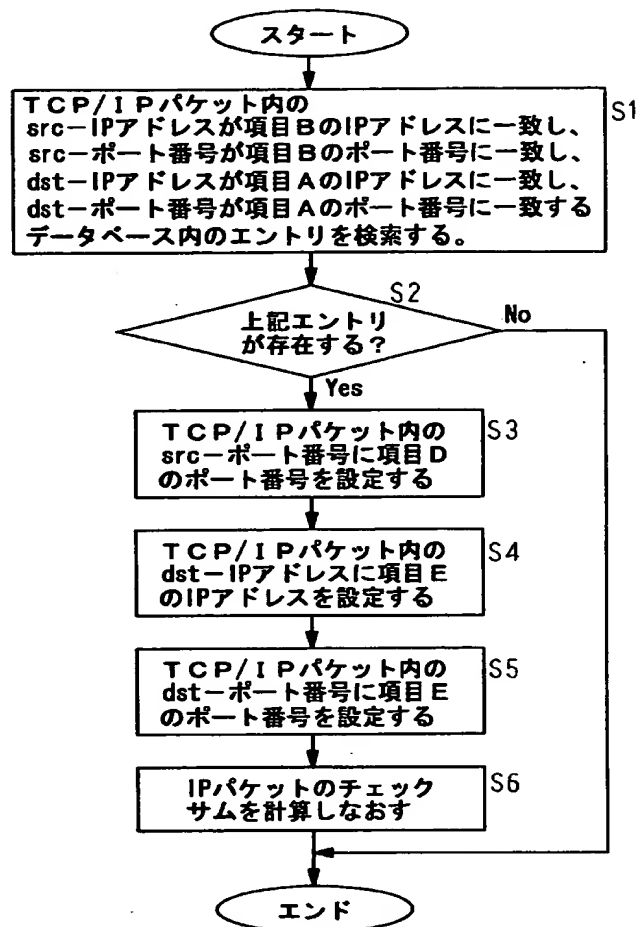
【図 1 1】

本発明の実施例の変換機能 3 の処理フローを示す図



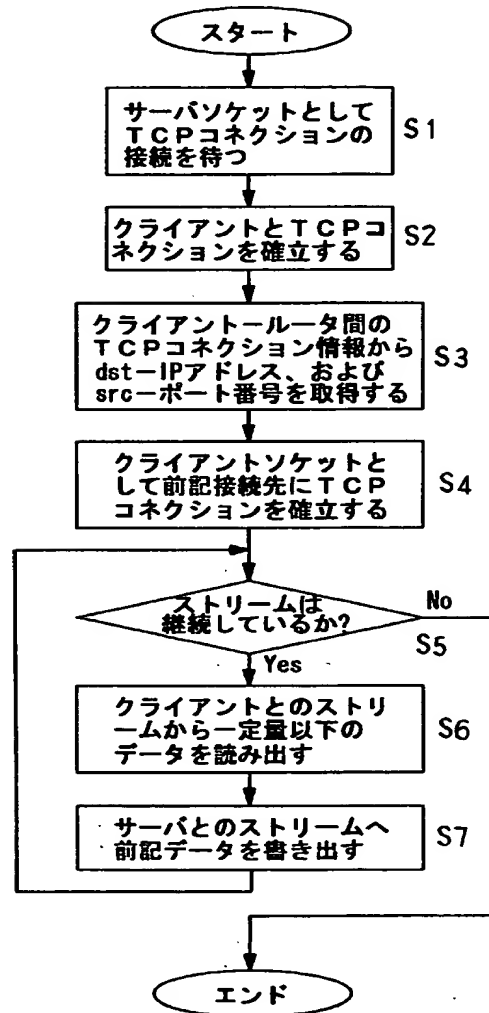
【図 1 2】

本発明の実施例の変換機能 4 の処理フローを示す図



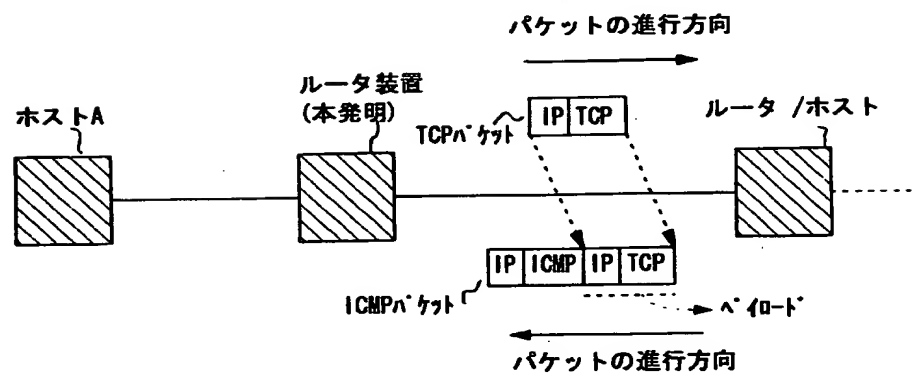
【図 1 3】

本発明の実施例のストリーム転送機能の
処理フローを示す図



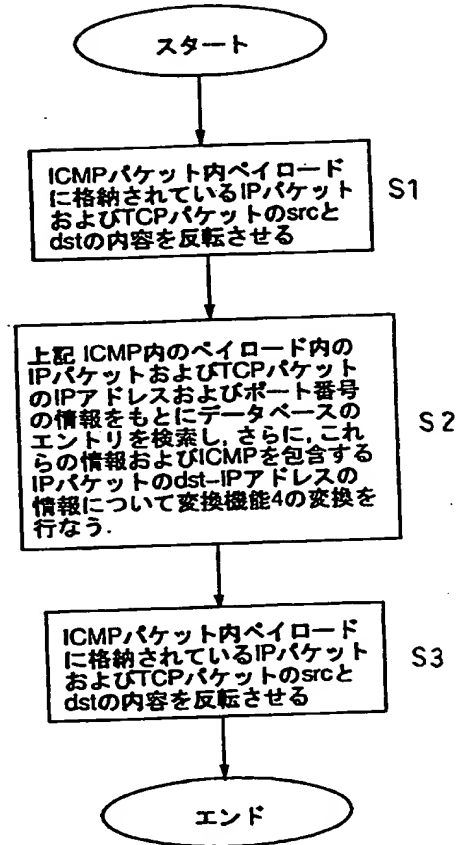
【図 1 4】

I P パケットの生成とペイロード情報の逆転を説明する図



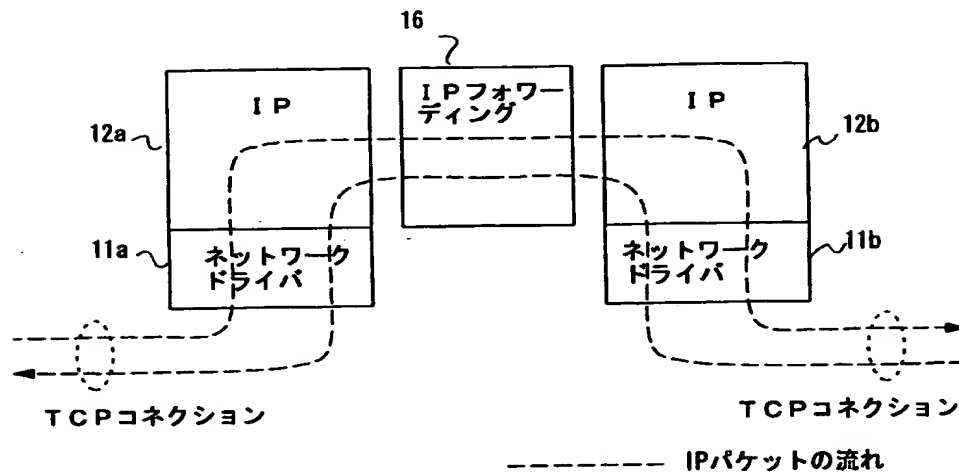
【図 1 5】

本発明の実施例の I C M P パケットの変換処理フローを示す図



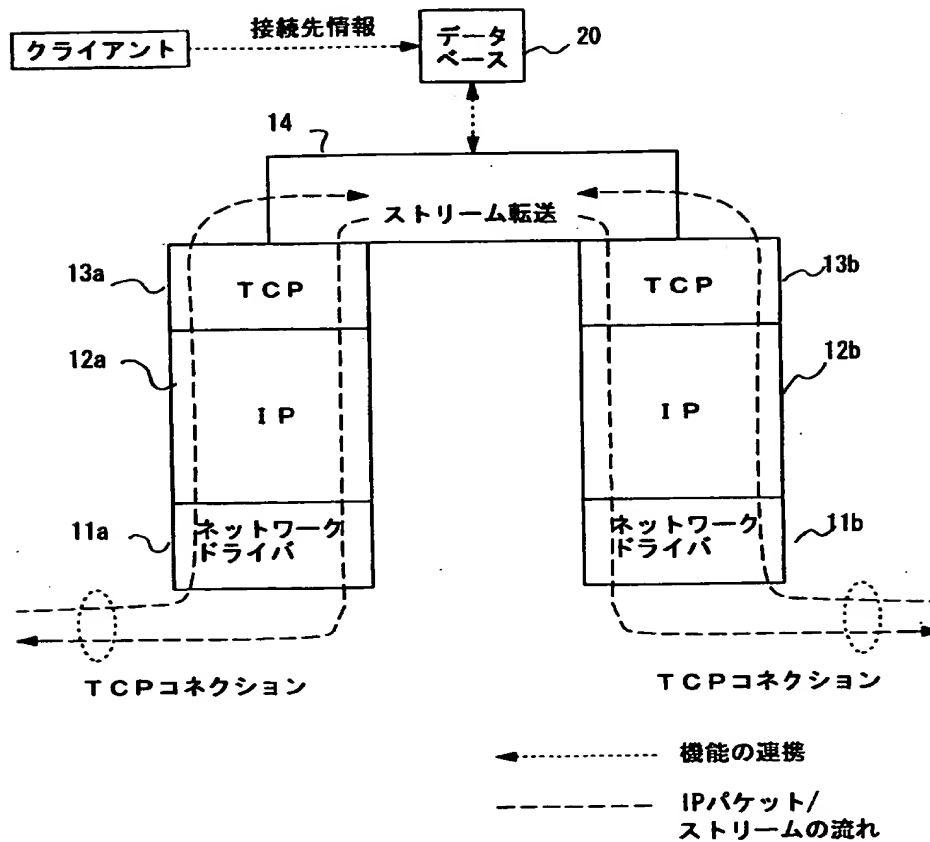
【図 1 6】

従来型 I P ルータ装置の構成を示す図



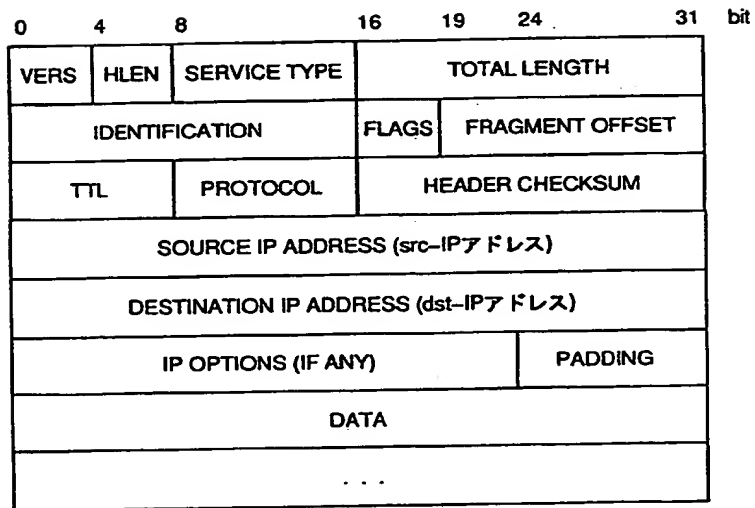
【図17】

従来型TCP終端装置の構成を示す図



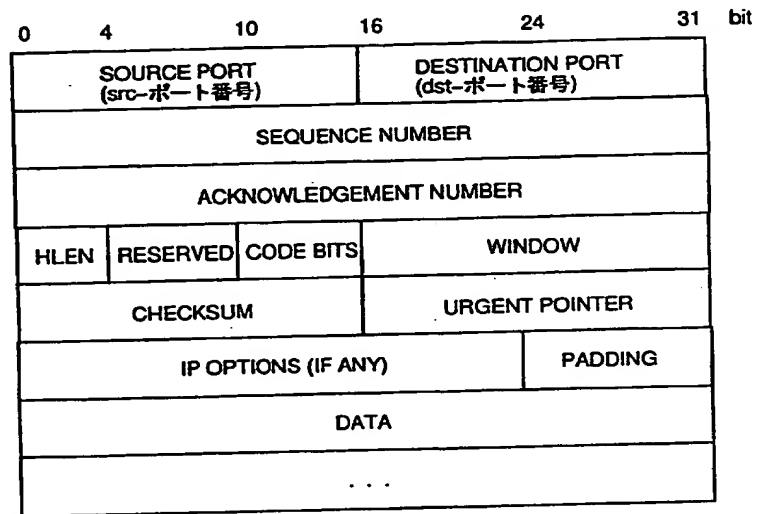
【図 18】

I P パケットのヘッダ構成を示す図



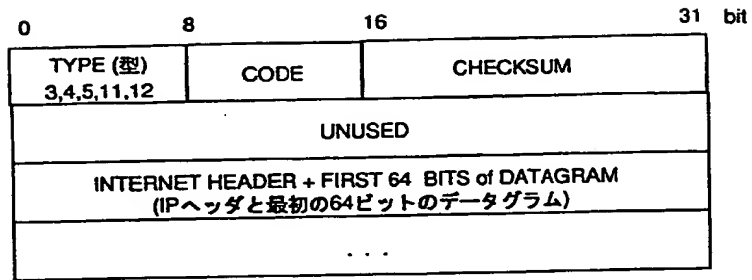
【図 19】

T C P パケットのヘッダ構成を示す図



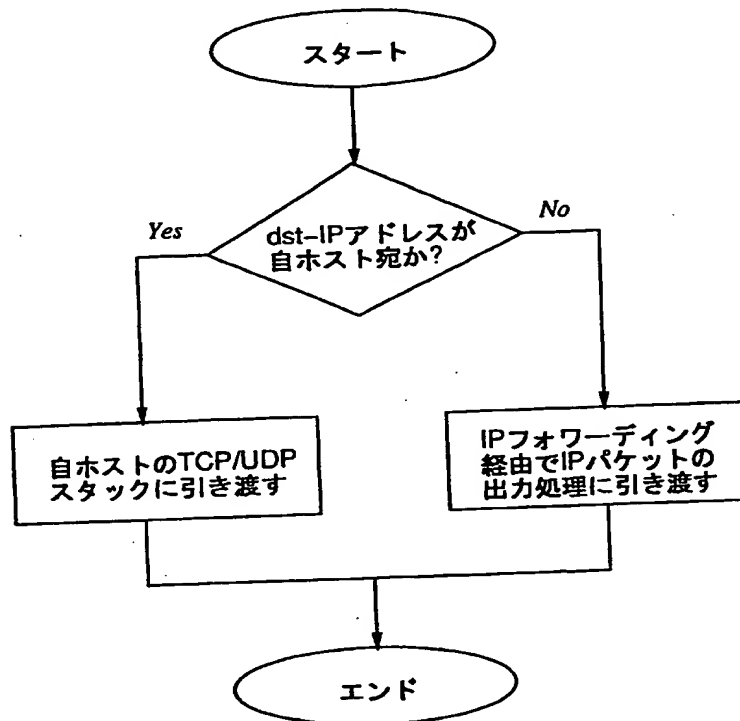
【図 2 0】

I C M P パケットのヘッダ構成を示す図



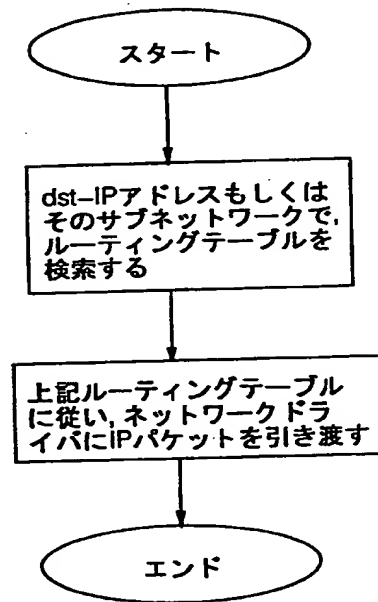
【図 2 1】

従来型の I P ルータ装置における I P パケットの入力処理フローを示す図



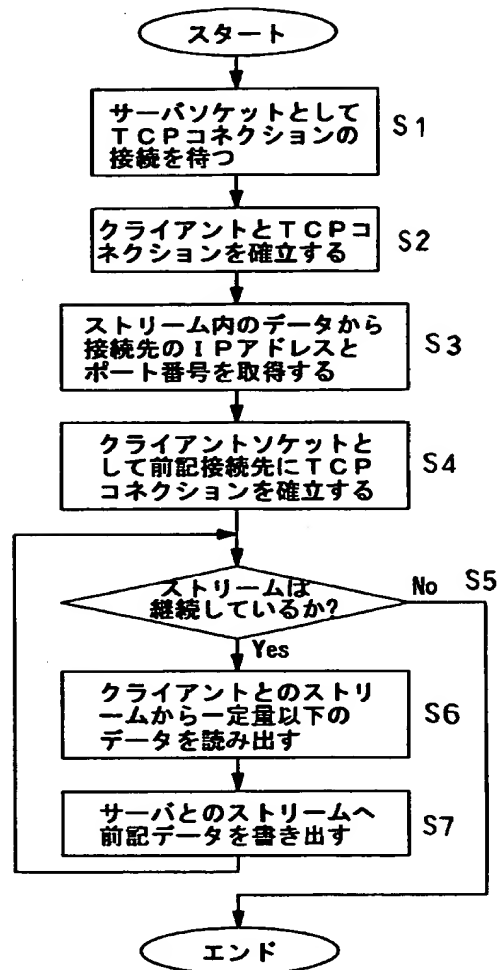
【図 2 2】

従来型の I P ルータ装置における I P パケットの出力処理フローを示す図



【図 23】

従来型のTCP終端装置におけるストリーム転送機能のフローチャートを示す図



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 グローバルコネクティビティを保証したTCPコネクションを終端させる機能を備えたIPルータ装置を実現すること。

【解決手段】 中継しようとするTCPコネクションを形成する複数のIPパケットがルータ装置1を通過しようとする際に、変換手段1, 4は、TCPコネクション管理データベース15と連携し、パケット内のIPアドレス情報およびポート番号情報の一部を所定の規則に従い書き換える。ストリーム連結手段14は、パケットからTCPコネクションの本来の接続先を示す情報を抽出し、2つのTCPコネクションをストリームで連結する。変換手段2, 3は、上記管理データベース15と連携して本来の接続先へのTCPコネクションを形成するように複数のIPパケット内のIPアドレス情報およびポート番号情報の一部を所定の規則に従い書き換える。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日	1996年 3月26日
[変更理由]	住所変更
住 所	神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号
氏 名	富士通株式会社

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [392026693]

1. 変更年月日 1992年 8月21日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都港区虎ノ門二丁目10番1号
氏 名 エヌ・ティ・ティ移動通信網株式会社
2. 変更年月日 2000年 5月19日
[変更理由] 名称変更
住 所 東京都千代田区永田町二丁目11番1号
氏 名 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ